

# 令和6年度 「園評価」結果公表シート

光塩大通り保育園

## 1. 本園の保育について

「保育」「教育」「食育」の3本柱  
なかよく あかるく げんきに ちょうせんする子

「なかよしな子」 友だちのことを思いやり人に対する愛情と信頼感を育む中、互いに助け合い仲間意識を育てます

「あかるく元気な子」 基本的な生活習慣を身につけ、健やかな心と丈夫な身体を育てます。バランスの取れた生活や戸外活動をする中、様々な体験を通し、元気に遊び自分の思いを素直に表現できる力を育てます。また、「食育」を通して、想像力豊かなこどもの感性を育てます。

「ともに生活をし挑戦する子」  
誰とでも明るく接し、自分で考えて行動する中、気持ちの良い挨拶ができる子を育てます。自分のことは自分で言い、他者と協力し合うことで協調性を育てます。

## 2. 本年度の重点と取組

本園では、危機管理として主に避難訓練を大切に考え職員同士が連携をとり、如何に子どもたちを安全に避難させることができるかを重点としてきました。また、安心できる保育園を目指し、保護者との連携も大切にしてきました。

## 3. 評価項目と内容および取組み状況 ☆評価 A：十分満足 B：おおむね満足 C：改善の方向で考えてほしい D：よくない

☆保護者の評価は、A・Bを含めての数値を基に判断。

評価項目	評価内容	達成状況と取組み状況
1 こどもの育み  A	□こどもたちは、保育目標である「なかよしな子」「あかるく 元気な子」「ともに生活しちょうせんする子」に向かって、健やかに成長していると思いますか。	◎こどもの育みとは、保育目標にある「なかよしな子」「あかるく げんきな子」「ともにちょうせんする子」を具現化した姿として表出されている。 “こどもの確かな成長”として捉えていただき、評価をいただいている。 ①今後は、こどもたちが主体的に行動できるよう保育過程を組み、育みを大切にしていきたい。 *こどもたちにとって充実した活動を展開するとともに、仲間同士の遊びを通して心身の調和を図り、一人一人の成長を促していく。 ②こどもの育ちについて全教職員で共有し方向性を定めるとともにいろいろな目で見れるようにしていく。
2 保育活動	□こどもたちが、日々の保育活動や行事などで、なかよく、楽しく明るく、挑戦して取り組めるように、活動が工夫されていると思いますか。	◎こどもの興味・関心・意欲を持続させていく中で、「楽しい」「工夫しよう」「また、やってみたい」等の意識が高まることは、こどもたちの成長の表れである。 保育園が楽しいと思えるこども、明日もまた行きたいと言えるこどもを育むための豊かな活動が大切である。日常の教育・保育活動においても、かなりの高評価をいただいている。 ①大通り保育園ならではの特色ある保育活動を実践。 ②こどもが、興味・関心をもって取り組めるような環境の設定をするとともにこどもが主体的に活動できるようカリキュラムを考える。 ③活動後のこどもの姿から改善点を吟味します。また、自発的な行動ができるよう挨拶を含めての指導の強化をする。

<p>3 食育活動</p> <p>A</p>	<p>□保育園は、食に対する関心を深めていますか。</p>	<p>◎本園の特色の一つである「食」に対して、毎日の給食、クッキングなどではかなりの高評価をいただいている。</p> <p>①「食育」の大切さを教職員が理解するとともに、保護者にも伝えていく。</p> <p>②子どもたちが、更に関心を深められるよう日頃の保育の中で知らせていく。</p> <p>③給食がマンネリ化しないよう新しい発信を大切にしていける。</p>
<p>4 保護者との連携</p> <p>B</p>	<p>□保育園は、ご家庭との連携を密に取り、保護者の皆様と協力して保育活動に取り組んでいると思いますか。</p>	<p>◎保護者と園との連携・協力は、子どもたちの確かな成長を促す上で、不可欠である。園から、子どもの様子を伝えたり、面談等で話し合ったり、園便りやクラス便り、ルクミーで園の予定や子どもの育ちを今後も知らせるが、さらなる工夫や教職員の共通認識が必要と考える。</p> <p>①保護者の悩みを聞ける場を充実させる。</p> <p>②保育園からの発信だけではなく、保護者に話しかけ困りを聞いていくことも大切にする。</p> <p>③今後は、職員が行っている訓練及び消毒等も様子も適時知らせ円としての取り組みを知っていただくことで安心感をあたえるようにする。</p>
<p>5 安全・安心な保育園</p> <p>B</p>	<p>□保育園は、安全に対する取組ができていますか</p>	<p>◎保育園は、安心・安全に生活できることが重要である。保護者が更なる安心感を抱けるよう今後改善が必要と考える。</p> <p>①教職員の個々の安全に対する意識を研修等を通して高めていきます。また、常に様々なことを予測し臨機応変に対応できる体制を整えていく。</p> <p>②けがや発熱の際の保護者への連絡では、敏速に伝えることを大切にしていける。</p> <p>③子どもたち自身が、安全を考えて行動できるようカリキュラムを見直したが、その結果についても保護者に発信していく</p> <p>④日常保育士がそのような視点で安全対策をしているか等を懇談などの場で知らせていく。</p>
<p>6 環境面</p> <p>B</p>	<p>□保育園の保育環境は、子どもたちが活動しやすいように、整備されていると思いますか。</p>	<p>◎日頃から、子どもの成長を育む教育環境の整備に努めており、高い評価をいただいている。</p> <p>①現在ある教育環境を最大限活用し、一人一人のこどもの心と体の健やかな成長を促していく。</p> <p>②園内外の環境整備では、教職員が今まで以上に目を向け改善していく。</p> <p>③外部からの侵入者に対し、意識を高めていく。</p>

#### 4. 今後に向けての課題として

安全管理・・・ 不審者対策や安全点検・安全管理の徹底。  
月1度の避難訓練だけではなく、チームとして動けるよう職員間の訓練の継続。

保育課程の見直し・・・ マンネリにならず、時代に合わせた保育の実現。  
不適切保育については、職員同士で言い合える関係性を継続する。

保護者との連携・・・ 担任だけではなく、園の職員全員でサポートできるよう日々のかかわりを大切にしていける。  
また、保護者が相談しやすい環境づくりを作るとともに手紙等の工夫を行う。